民報 平成29年10月16日（月） 12面 一般・医大

子どもと女性の健康相談室 19

お母さんと先生方へのワンポイントアドバイス

あいさつの目標は、「知人に会ったら自分からあいさつできること」です。お辞儀などのしぐさもきちんとできれば、よりよいでしょう。ほめ続けていると、知らない人にあいさつしてしまう場合もありますが、恥らず、穏やかに、教え続けましょう。

福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センター教授
横山 浩之氏

失敗から学ぶ幼児期

子育ての知恵 ㊦

さて前回は、「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアの問題」「お手伝い」「絵本の読み聞かせ」「しつけの3原則」を教えるのに、「してみせる」ことを取り上げました。

このことは、とても大切なことで、一番初めに保護者や支援者の方々にできるようになってほしいことです。しかしながら、子どもは、保護者や支援者の方々の意図とは異なることをしてしまうことも多いと思います。例えば、反抗期です。

反抗期は、正常な発達の一里塚です。それなのに、なぜ反抗しているように大人には見えるのでしょうか?

それは、子どもが「何か」を理解できていないからです。例えば一歳半ぐらいの子どもは、何でも「ヤダ」とか「イヤ」と言います。これは、「ヤダ」や「イヤ」という言葉の意味を分かっていないからです。一歳半ぐらいの子どもは、「ヤダ」とか「イヤ」と言った方が、大人にたくさんかまってもらえることを知っているのです。

また、三歳半ぐらいの時期には自我の目覚めが来ます。何でも自分でしてみたいのです。ただ、それだけです。決して、保護者や支援者が嫌いなわけではないのです。この時期には、失敗から学ぶことも大切です。大人から見ると、何でも自分でしてみたい子どもは、時間もかかるし危ないし、とても面倒に見えることでしょう。

このような幼児期に、子どもと一緒に利用できる本として、「マンガでわかるおうちのルール（小学館）」を作りました。子どもとマンガを楽しみながら「早寝・早起き・朝ごはん」「メディアの問題」「お手伝い」「絵本の読み聞かせ」「しつけの3原則」を学べます。

幼児期のみならず、小・中学校でも、復習に使えます。発達障害などの行動上の問題がある子どもにも理解しやすいように、さまざまな工夫がなされています。また、保護者向けのアドバイスも掲載されています。良かったら、書店で手に取ってみてください。

＝次回は11月20日掲載＝

ふくしま子ども・女性医療支援センター
http://www.fmu.ac.jp/home/fmccw/